

平成29年度第1回「三重県2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業推進本部」会議概要

日 時：平成29年5月12日（金）9:27～9:45

場 所：県庁3F プレゼンテーションルーム

1 「三重県2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業推進本部（仮称）」の設置について

事務局（清水課長）から、資料1、資料2-1、資料2-2を説明

西城戦略企画部長

・各部局長に了解いただいたので、「三重県2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業推進本部」を設置する。

2 三重県の平成28年度取組実績、平成29年度取組予定について

28年度の実績（資料3）、29年度の実績予定（資料4）により複数の部局長から取組概要を説明。

村木スポーツ推進局長

・キャンプ地誘致の進捗状況を報告する。県内では5市町がキャンプ地誘致に取り組んでおり、既に四日市市とカナダ体操協会との協定がまとまった。

県内では、キャンプ地として施設基準を満たしている施設、例えば三重交通グループスポーツの杜鈴鹿の水泳場などもあるので、引き続き手を挙げていない市町も含めてキャンプ地誘致の取組を強化していく。

・東京オリパラや国体での本県出身の選手の活躍が県民の皆さんの関心を高める。大学生を中心にレスリングやウェイトリフティングで既に国際的に活躍している選手がおり、オリンピック、翌年の国体も見据えて選手強化対策を実施。

・2019年のラグビーワールドカップでも鈴鹿市と県が事前キャンプ地に手を挙げている。このキャンプ地は、大会期間中の滞在地となり、地域にも好影響になるので引き続き選定されるよう組織委員会への働きかけを強化していく。

・リオオリンピックが終わって1年になり、キャンプ地選定も本格化。国内の中央競技団体だけでなく、各国の競技団体に対しても市町と連携してアプローチしていく。

田中健康福祉部長

- ・健康福祉部では、障がい者の自立と社会参加を推進するため、障がい者スポーツの振興に取り組んでいる。平成 28 年度は全国障害者スポーツ大会に選手を派遣するとともに、ふれあいスポレク祭、県障がい者スポーツフェスティバル等を開催。
- ・新たに県全域を対象としたボッチャの交流会も開催。イタリア語でボールの意味のボッチャは、カーリングに似ているスポーツで、重度の障がいがある方も参加いただけるスポーツ。ボッチャの選手育成や練習環境の整備を進め、ボッチャの普及を図り、重度障がい者の参加機会の拡大を図っていく予定。
- ・平成 28 年度の実績としては、水泳、ボッチャ、卓球及びゴールボールの 4 競技団体が県内で合宿を行い、施設や対応が高く評価された。平成 29 年度は、引き続き、継続的な合宿誘致を行うとともに、障がい者スポーツへの参加意欲や県民の関心をより高めるため、ボッチャ競技の世界大会の開催誘致に向けた取組を進める。

前田農林水産部副部長

- ・資料 4 の 2 ページに記載の（農林水産物の東京オリ・パラに向けた総合推進事業など）7 本の事業を中心に、東京オリパラに向けた供給体制の構築や首都圏での販路拡大を官民一体で進めていく。
- ・「東京オリパラ三重県農林水産協議会」を設立する予定で、平成 29 年 5 月 24 日にシンポジウムを開催する。協議会は、全体会の下に 5 つの部会を設け、約 600 の事業者の皆様が参加のフードイノベーションネットワークとも連携し、取組を進めていく。昨年度、三重の食国際大使に任命させていただいた三國シェフ（東京オリパラ組織委員会顧問）にアドバイスもいただき事業を推進していく。事業進捗については、推進本部で報告し、全庁的な共有を図っていく。

3 国への提言・提案について、今後の予定について

事務局より 5 月 16 日、17 日に実施予定の国への提言・提案に関して資料 5 に基づき説明

事務局より今後の予定を資料 6 に基づき説明

4 知事コメント

- 東京オリパラは、三重を PR する絶好のチャンスになる。東京オリパラ大会組織委員会や各省庁の動きが本格化しており、国のオリパラ関連予算でも平成 29 年度当初予算では、28 年度当初予算に比べて 34 億円多い約 201 億円が計上。国の 30 年度予算、31 年度予算、32 年度予算でも東京オリパラに関係する予算は当然増加していくものと考えられる。各部局はアンテナを高くして対応すること。また、各省庁から各部局に縦のラインでの情報伝達が多くなってくると思われるので全庁的にしっかり共有すること。
- 次回推進本部の予定が 10 月となっているが、概算要求が 8 月なのでタイミングを逸することなく、アンテナを高くするとともにスピード感をもってやることを重視すること。
- 伊勢志摩サミットの場合もそうだったが、サミットに備えて外国人観光客の受け入れ体制の整備を進めたことや、食を発信したことは、その結果、観光や食のバージョンアップに繋がった。
東京オリパラで目立つ、選ばれるということも当然大事だが、根本目標はその後に向かってレベルアップしていくこと。ターゲットは、東京オリパラであるが、各分野がレベルアップし、発展させるきっかけに東京オリパラを使うという意識が大事。東京オリパラに向けて国の予算も増えていくので使える予算は、何でも使う、また国の予算も活用し、事業者の皆さんとも連携していくこと。
- 伊勢志摩サミットの際、安全に対する三重県のいい取組は、レガシーになったのでどんどん発信したり、協力できることはしっかり協力していくことが大事。警備面だけでなく、食の安全、水道の面等色々なところで安全を完璧にやってきたことを発信するとともに、我々が貢献できることは貢献していくこと。
- 全体的な機運を盛り上げ、県民の皆さんに分かりやすいのは、事前キャンプ地が来ること。全体の取組を引っ張っていくためにも、東京オリパラのキャンプ地誘致にしっかり取り組んでほしい。
- 文化プログラム、来年度レガシープログラムも考えられるという噂もあるので、県民の皆さんの機運醸成につながるパーツを担うところは、しっかり全体をけん引する気持ちでやること。

以 上